能代市 旧料亭 金勇（かねゆう）

国登録有形文化財

天然秋田杉の殿堂

満月の間

ご　案　内

- 見学時間…9:30～16:30
- 休 館 日…年末年始（12月29日～1月3日）
- 入 館 料…無料
- 館内案内…1人200円
  団体割引（15人以上）1人100円
  高校生以下無料（要予約）
- 貸出時間…9:00～21:00（16:30以降、予約時のみ開館）
  料金表（1時間あたりの料金）

部　屋　名	9:00～18:00	18:00～21:00
有明（8畳）	90円	110円
吉野（10畳）	110円	130円
川風（12畳）	130円	160円
満月（42畳）	320円	380円
大広間（110畳）	800円	960円
全館	1,450円	1,740円

※冷暖房費別途　※営利目的の場合は1.5倍

- 食事手配…ご希望のお部屋へお食事等を手配しております。
  前日までにお電話でお申し込みください。
- 部屋貸出…食事での利用の他、催し物や展示会等にご利用いただけます。

- 交通案内
  - JR五能線　能代駅より徒歩10分
  - 能代東IC、能代南ICより車で15分
  - 駐車場完備　大型バス・マイクロバス可

お問い合わせ

能代市旧料亭金勇　〒016-0825 能代市柳町13-8
☎0185-55-3355

HP http://www.kaneyu.jp

　能代市は米代川の河口の町として発展し、秋田杉の製材を中心とした木材加工の町として栄えました。明治中期、秋田木材株式会社を設立した井坂直幹（いさかなおもと）が機械製材を導入してから木材加工業は急速に発達し、市内には製材工場が立ち並びました。製材された材木は国内のみならず海外まで輸出され「東洋一の木都（もくと）」と称されるまで発展しました。

　昭和12年に新館として建てられたこの建物は、栄華を極めた材木界の迎賓館として、取引き先の方々をおもてなしするために建てられました。天然秋田杉の良材を余すことなく使用した上品な造りが今も見るものを魅了します。木材加工で栄えた「木都」の栄華を今に伝える貴重な歴史的建築物です。

旧料亭金勇の歩み

明治23年（1890年）	初代金谷勇助　柳町に貸座敷の開運楼を創業
明治26年（1893年）	4月　政談演説の場として現在地に山本倶楽部（通称金勇倶楽部）を建築　他に劇場の米代座　能代公園の和洋料理　紫明館（昭和7年焼失）を経営
明治38年（1905年）	12月　柳町に火事があり開運楼が全焼
明治39年（1906年）	9月　開運楼を再建し金勇楼と称した
明治45年（1912年）	7月　柳町に再度火事があり金勇楼が全焼　再建後山本倶楽部別館と称した
昭和12年（1937年）	2代目金谷勇助　新館として現在の建物を建築　8月着工　9月上棟式　11月10日竣工　大工45人　人夫20人を常用
昭和26年（1951年）	料亭金勇へ名称を変更
昭和32年（1957年）	10月　旧館解体に伴い玄関を改築し、厨房を増築　舞台を改修し　空調を取付
昭和45年（1970年）	大広間舞台の緞帳を新調
昭和54年（1979年）	上げ汐の間　曙の間　結婚式場などを増築
昭和58年（1983年）	日本海中部地震により一部損壊　大広間の照明などを改修
平成10年（1998年）	10月　国登録有形文化財に登録
平成20年（2008年）	8月　料亭金勇閉店
平成21年（2009年）	3月　4代目当主　能代市へ土地建物を寄贈
平成25年（2013年）	増築部分解体、耐震補強工事　12月観光交流施設能代市旧料亭金勇として開館

1 満月の間（1階中広間）

天井の一枚板が見事な1階の中広間。1本の木から5枚取られた長さ5間（9.1m）の中杢単板天井板は木挽き職人が1枚の板に約3日間かけて挽いたと言われています。

2 有明の間

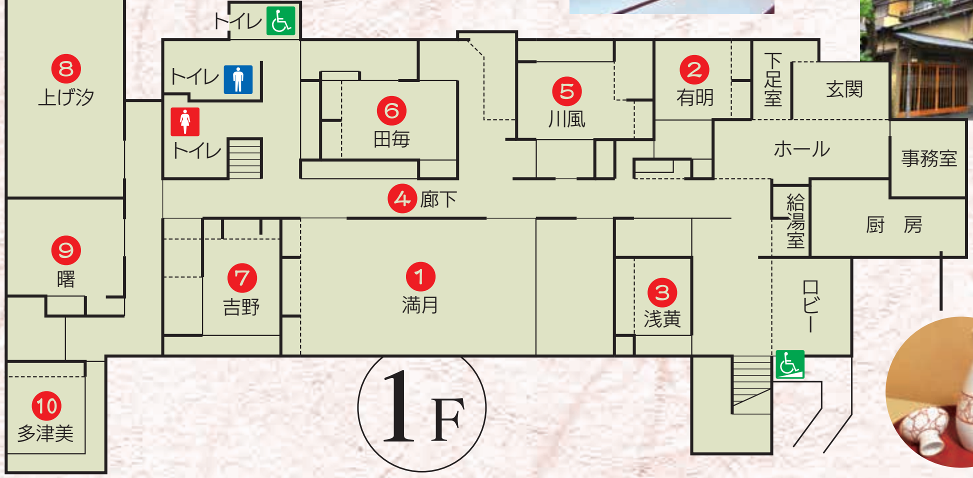
当時の最先端技術であった柾単板を張った柱や張柾天井板などを使用した部屋です。貴重な初期の張柾製品を見ることができます。

11 大広間（2階）

110畳の広さを誇る金勇の大広間では、多くの宴会や婚礼式などが行われました。大きさ畳1畳の全面杢天井板を卍型に配した格天井が見どころです。この杢目板は樹齢260年以上、直径2メートル級の木の伐根の部分より伐り出されたもので当時でも大変貴重なものでした。

床の間・床柱

幅5間の床の間は、110畳の大広間に見合った格調高い空間を作り出しています。丹念に磨きあげられた大広間のイタヤカエデの床柱は十和田湖畔から伐り出されたもので幅5間の床の間と共にどっしりとした独特の存在感を放っています。

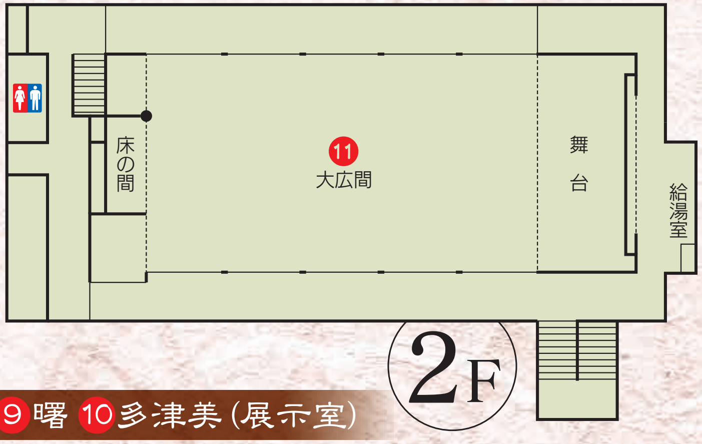


舞台

往時には能代芸者が手踊りを踊っていたという舞台。完成当時は総ヒノキ造りの箱舞台でした。

花籠

竹と木の根で編んだ花籠で、当主自ら京都で買い求めたものです。大きさといい大変珍しいものです。



硝子戸・建具

建具はすべて能代の建具職人によって作られました。柔かな揺らぎの手漉き硝子は建設当時からのものです。大広間の1間幅の硝子障子と襖が圧巻です。

3 浅黄の間

完成当時は廊下側に出入口がありました。床柱が上下に切られています。

4 廊下（1階）

長さ25メートル幅1間の1階廊下は、継ぎ目のない特注のゴザがしかれています。

5 川風の間

欄間の「割氷の紋様」が特徴的です。3代目当主がこの紋様を好み金勇の銚子と盃の模様に使いました。

6 田毎の間

政治家や上客が重要な会合や商談に利用した部屋です。完成当時は掘りごたつになっていました。

7 吉野の間

天井が二分され上下がはっきりと分けられた造りが特徴です。

8 上げ汐 9 曙 10 多津美（展示室）

江戸時代から一子相伝の技により継承されてきた能代の伝統工芸品「春慶塗」（故東山鉱平氏寄贈）の他、現代の名工武田久雄氏作「組子建具」や、金勇大広間で開催された囲碁本因坊戦ゆかりの品々を展示しています。